

【生命科学部】令和7年度 学部教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

本学部カリキュラム委員会は、学部長、副学部長、学科主任（2名）、学科教務（2名）で構成されている。学部における教学マネジメントについても、このカリキュラム委員会の構成員で行う体制としている。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

① カリキュラムマップ

これまでに行ってきたワークショップなどの取り組みで、学科ごとのカリキュラムマップが完成しつつあるが、学部教員の周知が不足しており、履修指導等に活用されていない。

② シラバス

新学年歴の導入に伴う様式変更への対応が引き続き必要。特別研究（特別研究1および2）のシラバスについては、実情に合わせた記載方式に変更する必要がある。

③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）

特になし

今年度の取り組み

学部公開授業とFDワークショップを通じて、学部全教員の理解向上を促す。一度の開催では完全な意識の共有まではできていないので、継続してカリキュラムマップについて、学部全教員で考えていく機会をもつことが必要である。特別研究のシラバス記載方法についても、カリキュラム委員会等で検討し、令和8年度からは改善された記載となるようにする。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

学部共通の基盤科目である「物質生物化学」「代謝生物化学」「分子生物学」「細胞生物学」の4科目は学部の中心となる学びであり、今後、その教育成果について、各学科の特徴を理解しつつ、学部の基盤科目としての位置づけを検証する必要がある。

今年度の取り組み

今年度には、特に「分子生物学」を対象にして、両学科における合格率、成績分布などのデータを取得して評価する。結果に基づいて課題を洗いだし、学部共通基盤科目としての位置づけを明確にしつつ、今後の改善につなげる。具体的には、分子生物学を学部公開授業の対象にし、FDワークショップでこれらのデータと今後のあり方について学部教員で議論する予定である。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

シラバスに記載されている到達目標の達成状況や学生の資質・能力の修得状況が適切に測定できているか、アセスメント科目を中心に検証する必要がある。

今年度の取り組み

アセスメント科目を中心に成績分布データなどの解析を行い、授業科目の到達目標や資質・能力の育成が実現できているか、学部 FD ワークショップや学部教学マネジメント会議にて議論する。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
学部共通基盤科目 「物質生物化学」 「代謝生物化学」 「分子生物学」 「細胞生物学」	<input type="checkbox"/> 外部アセスメントテスト（GPS アカデミック） <input type="checkbox"/> 学習成果実感調査 ▪ GPA <input type="checkbox"/> 在学生調査（在学生生活に関するアンケート） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
学科専門基盤科目 「先端生命科学特別研究 2」（先端生命科学科） 「生命科学プロジェクト研究 2」（先端生命科学科） 「産業生命科学特別研究 2」（産業生命科学科）	検証方法（卒業時） ▪ 卒業研究・卒業論文 ▪ GPA <input type="checkbox"/> 卒業時調査（4 年次生調査） <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

学部共通基盤科目 4 科目については、GPA の成績分布データの精査から、「授業の到達目標」の達成ができているか検討していく。学科専門の基盤科目である特別研究およびプロジェクト研究（卒業研究科目）については、学部の卒業研究発表会での発表や卒業論文などの成果物を指導教員が評価する。

その他

特になし

※この内容は令和 6 年度以降、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP への掲載を検討します。